

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふりーすたいる わくわく事業所			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日	～	令和 7 年 2 月 10 日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日	～	令和 7 年 2 月 7 日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 2 月 12 日			

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者様の障害特性や性格、状況に応じたトレーニング内容を提供している。	スタッフ間で常にご利用者様の変化を確認・共有、またご家族や関係機関(学校、相談支援事業所等)と連携を取りながら、常に「鮮度のある支援」が行えるように環境を整えている。	支援内容が単調化しないよう常に情報をアップデートし、ご利用者様だけではなく、スタッフも共に成長をしていきたい。
2	利用を希望されるご利用者様には、土曜日を中心に一人、1時間ずつの個別療育を行っている。	個別療育を行う事で、ご利用者様の強みや苦手としている事が明確になる。強みの部分は継続しながら、苦手な部分については平日のご利用時のトレーニング内容として提供し、土曜日に再度、チェックを行う事でご利用者様の変化を確認している。	個別療育を担当できるスタッフが限られている為、スタッフのスキルアップを行う事で更に、多角的かつ充実した個別療育が実施できる。
3	学童期から壮年期までの福祉サービスに従事したスタッフが常駐している。	児童期の課題にも対応しながら、ライフステージを見据えた支援を行うようにしている。場合によっては「今、これが必要？」と疑問に思われる方がいらっしゃるのも事実ですが、経験に基づいた支援を展開しています。	スタッフ間での経験値のばらつきがあるが、この部分を解消する為、勉強会や情報共有の場(時間)を増やしています。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用者様に提供できる社会資源がすくない。(公共交通期間の利用体験や買い物体験等)	地域課題でもあるが、事業所が山間部にある為、利用できる社会資源が限定的または枯渇している状態となっている。	事前に計画を行い、社会資源の活用を体験できる時間を確保する。また、計画の際にはスタッフだけではなく、ご利用者様も参加しタウンミーティング的に行い、地域課題に直接、触れさせる事も重視している。
2	スタッフの知識や経験値にばらつきがある。	統一した支援を目的としているが、スキルの違いによって「解釈の違い」も生じやすくなっている。	勉強会や情報共有の場(時間)を増やし、スタッフのスキルアップを行っている。また、スタッフ個人の価値観が入りすぎないように共通理解も深めて行く必要がある。
3	地域との繋がりが少ない。	土曜日は個別養育として開所、日曜・祝日は閉所している為、事業所として地域のイベントに参加できる機会が少ない。	スタッフの業務過多にならないよう、可能な限り地域で開催されるミーティングには参加し、情報収集を行いながら、ご利用者様も参加可能なイベント等が開催される際は計画を立案する必要がある。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ふりーすたいる わくわく事業所				公表日	令和 7 年 2 月 21 日	
		利用児童数				17名	回収数	12名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	90%	10%				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	80%			20%	屋外に段差はあるが許容範囲内。	ご利用者様の特性に応じて個別対応を行います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	90%	10%			事業所内に入る事が無いので現状が把握できないところはあります。	ご要望に応じて事業所内の様子を確認して頂く事は可能です。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	90%		10%		特性に応じた支援を受ける事は出来ているが、支援員の方によって支援の方法に違いがあるように思う。	ご指摘のように違いが生じている場面もありますが、随時、情報共有を行い統一した支援に努めています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	40%	20%		40%		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	90%	10%			しっかりと将来を見据えて計画をされているが、時々、専門用語があり分からない事がある。	内容には十分に配慮しておりますが、ご指摘の点につきましては今後、改善、併せてご説明を加えさせていただきます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20%	20%		60%		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	70%	20%	10%		同じプリントを持ち帰って来る事がありますが、これは固定化に当たるのではないのでしょうか？	目的を持って同様のプリントを提供する事がありますが、十分にご説明が出来ていなかった点は、今後の改善点とします。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10%	30%	60%		児童館が移動になったので今後、交流はどうなりますか？	児童館に限定せず、交流が可能な機関と調整、実施を行いたいと考えています。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	50%		30%	20%	研修会等には参加した事はありませんが、保護者からの相談には適切な対応してくれます。	ご家族向けの研修会は実施できておりませんが、今後も随時、ご相談には対応させていただきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができてきていると思いますか。	100%					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	40%	60%			定期での面談の機会は少ないですが、送迎の際の様子を伝えてくれます。	必要に応じて面談を行いますので遠慮なくお申し出ください。送迎時の情報共有につきましては継続させていただきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20%	40%	40%		保護者同士の交流はありません。	今後、ご要望の状況を考慮しながら、必要に応じて計画させていただきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%				相談させてもらうことがあったが、迅速に対応して頂いた。	今後も継続して対応させていただきます。
	20	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%				支援者の方は家族では気がついていなかった所(クセ等)にまで気がついていました。	常時、ご利用者様の変化を観察しております。必要な点につきましては今後も情報提供させていただきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	60%		40%		サービス提供記録で様子はお知らせしてはいるが、お便りやSNSの更新が減ったように思う。	ご意見の通りです。今後、定期的に発信できるような業務改善を行います。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%						
非常時 等の 対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	60%		20%	20%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%				事故は無いが、小さな変化でも報告してもらっているのがありがたいです。	今後も継続して対応させていただきます。
満足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	100%				安心感もありますが、先生が怖いとかでは無く、良い意味で緊張感を持って利用できています。	緊張と緩和も将来に向けて必要な支援と考えております。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%				利用されている方、それぞれの楽しみを準備されていると思う。	わくわく事業所では、頑張った事に対する評価も大切に支援を行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				他の事業所を見たことが無いので分からないが、不満に思う事は無いです。	今後も、ご利用者様、ご家族様のニーズに対応しながら支援させていただきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ふりーすたいる わくわく事業所				
		公表日 令和 7 年 2 月 21 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		特化した個別的なスペースは無いが、集団生活の中で互いに配慮をしながら活動できる環境を提供している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		事業所理念に則ったサービスを提供できる人数の職員を配置している。	職員の平均年齢が高い為、若い人材を雇用したい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的に集中できる環境を提供する為、意図的にキャラクター等の壁面への掲示は避けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		サービス提供時間前後の清掃を徹底しており、利用者の過ごしやすい空間作りを心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別的なスペースは無いが、集団生活の中で互いに配慮をしながら活動できる環境を提供している。	必要に応じてはパーティションの使用も可能となっている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		通所支援計画書に沿って定期的に利用者の状況確認や振り返り、目標の再設定を職員間で常に実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		必要に応じて直接聞き取りを行っており、評価表を参考に改善を心掛けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		管理者とその他職員は都度意見交換を行い、必要な意見は積極的に取り入れている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価を受けていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資質の向上は終わらぬ道と受け止め、定期的に研修会を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	支援プログラムは作成済	本年度中に公表予定。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		サービス提供を行う中で利用者の情報収集を行い、保護者からの要望を重ね合わせ、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が中心となり、情報を集約しながら計画を作成している。	事業所内だけでなく、関係機関の情報も積極的に活用して行きたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		当日、利用する利用者の計画書をサービス開始前に全スタッフで確認し支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル、インフォーマルの両面に属したアセスメントを行っている。特にインフォーマルに特化している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			必要な資源や対応内容まで考慮した支援内容を設定している。 具体性については情報収集を行いながら、更に具体化を進めて行きたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		定期的に行われている会議で、活動プログラムの案を出し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用者の成長や変化に合わせて活動内容の見直しをしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		導入に関しては個別活動を主としているが、最終目標として集団活動に繋げている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に当日提供するトレーニング内容の確認を行い支援をしている。	
	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後の振り返りは都度行い、気付いた点は必ず共有し、次回の支援に反映させている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録は将来への記録である事を意識し、多角的な目線で記録を行い、支援の検証・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、利用者本人、家族の意向も伺いながら計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		単に基本活動を複数組み合わせるのみならず、そこに利用者の“楽しみ”を加味出来るよう支援している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		支援プログラムについては誘導的に行っている部分もあるが、自己決定も含めたプログラムを提供している。	クローズドな自己決定にならないように配慮が必要。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議には主に児童発達支援管理責任者が参画している。	

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	学校との連携が主になっている。	福祉、医療、保育、行政等の関係機関とも連携を強化して行きたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校より行事予定表や細かな情報共有を受け取り、ミスマッチを回避している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	利用開始前までに必ず情報共有の場を設け、相互理解を行なっている。	
	30	学校を卒業し、放課後等サービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	数名ではあるが該当実績があり、可能な限り情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターからの助言は受けていない。	必要に応じて連携を行い、助言を頂く機会を設けて行きたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	隣接していた児童館が移動した為、交流の機会が無くなっている。	児童館に限定せず、交流が可能な機関と調整、実施を行いたいと考えている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	協議会の存在は認知しているが参加はできていないのが現状。	今後、積極的な参加を検討する必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	支援終了後、一日の状況や課題を保護者にお伝えし、また、必要に応じて面談を行い共通理解の場を設けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	ペアレント・トレーニングの支援は行っていないが、保護者の声に関しては迅速にレスポンスしている。	ご家族向けの研修会は実施できていないが、計画も必要と考えている。今後も随時、保護者の声には対応していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時、運営規定や契約内容を具体例を挙げながら補足説明をして、質問にはその場でお答えしている。	
	37	放課後等サービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	定期的なモニタリング会議や必要に応じての面談等で、利用者や保護者の意向を確認している。	
	38	「放課後等サービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等サービス計画の同意を得ているか。	○	状況説明を加えた上で同意を頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	定期的または必要に応じて面談を行い、保護者の不安解消または軽減に努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	保護者同士の交流はあまりない。	今後、ご要望の状況を考慮しながら、必要に応じて計画する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	まずは状況確認、事実確認を行い、誤解や曲解があればそれを解決し、その上で迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	サービス提供記録で利用者の様子はお伝えしているが、お便りやSNSの更新が出来ていない。	今後、定期的に発信できるよう業務改善を行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報については常に厳重に取り扱い、漏洩防止に努めている。また言動にも十分注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	利用者の特性を理解し、それぞれに適した表現方法で、その日の様子をお伝えしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	当事業所が企画するイベント等へ招待する機会は設けていない。	地域連携の意味も含め、今後、検討が必要と考えている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	職員への周知し、保護者へも可能な限り連絡相談を行なっている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	計画に沿って定期的に利用者も含めた訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	アセスメントにて基礎疾患の把握や服薬状況の確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	医師の指示書による指導は無く、ご家族からの情報提供のみになっている。	状況に応じて指示書の提出を依頼する事を検討する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	記載の通り実施されている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	内部のみの周知になっている。	今後はご家族やご親族も含めて周知を行う必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットの様式は活用していないが、記録を元に情報を共有し、再発防止に努めている。	ヒヤリハットの様式の活用を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	事例等を参考にして、定期的に研修会を開催している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等サービス計画に記載しているか。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合は、必要性を十分に説明し同意を得る。また、解除に向けた検討も早期に行う事を事前確認している。	